

授業科目

教育実習指導論

| | | | | |
|---------------|------|----|-------|------|
| 【担当教員名】 後藤 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 本・栄養 |
| | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 選択 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

教育実習は、それまでに受講した教職概論、教育原理、教育心理学などの教職科目の知識を統合し、教育者としての基本的な態度や実践的力量を身につける場である。本講座では、1/2年次の観察参加実習とこれらの講義を関連づけ、実践場面での教科指導、教科外指導、生徒理解及び生徒指導、教育課程の実際を学び、4年次の本実習に向けての基礎を構築する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 学校教育目標の実現に向けての教育課程の編成とその工夫が説明できる
2. 生徒指導の基盤となる生徒理解の基本的な技法がわかり、利用できる
3. 教材研究の基本的な技法について知り、学習指導案作成に生かすことができる
4. 任意の単元における学習指導案を作成し、それに基づくマイクロティーチングができる
5. 教科外指導に積極的に参加し、その実践を報告できる。
6. 学校運営における体育科教師の果たすべき機能を列挙することができる。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO | |
|----|---|---|--------------------|
| | | 番号 | 学習方法・学習課題又は備考・担当教員 |
| | 1 教育実習の意義 2 学校の組織編成教育課程の編成とその工夫 3,4 生徒の理解と生徒指導 5,6 授業をいかに観察するか 7,8 教材研究の方法 9,10 学習指導案の作成とマイクロティーチング 11 教科外指導の観察と参加 12,13 教科外指導の実践事例発表 14 学校運営における教師の機能 15 教育実習に向けて | 1 講義 1 講義 2 講義・演習 3 講義・演習 3 講義 3 講義・演習 4 講義 4 演習 5 講義 | |

| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格・その他> |
|-------------------|--------------------------------------|-------|-------|--------------|
| 教科書 (必ず購入する書籍) | 柴田義松・木内剛(2004)『教育実習ハンドブック』学文社、1,400円 | | | |
| 参考書 | | | | |
| その他の資料 | | | | |

| | |
|-------------------------|--|
| 【評価方法】 出席、小レポート、レポート | 【履修上の留意点】 1年時に配布した教育実習ポートフォリオを利用する。 |
|-------------------------|--|